



# すこやか通信



## 横須賀市医師会の活動

### コロナ禍でのコロナ病院診療 ～横須賀市立うわまち病院編

横須賀市立うわまち病院 感染制御室 福味 禎子



新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が発生してから早3年近くになろうとしています。病原体であるウイルスの特徴も解明されつつあり、日常の感染対策だけではなく、診断のための検査体制や検査方法の確立、ワクチンや治療薬の開発と、当初に比べると充実した診療ができるようになってきたと感じています。

横須賀市ではコロナ診療について市内の病院を役割分担しています。横須賀共済病院、横須賀市立市民病院、そして横須賀市立うわまち病院の3病院で入院が必要な急性期治療、いわゆる発症早期の治療を、急性期治療終了後も入院治療が必要な場合は下り搬送病院（衣笠病院、聖ヨゼフ病院）で継続診療をする方針で調整をしています。今回はCOVID-19の一般的な入院診療と当院での現状をお伝えします。

報道でもあるように、症状（特に咳や息苦しさなどの呼吸器症状）、酸素飽和度と肺炎像で重症度を軽症・中等症Ⅰ・中等症Ⅱ・重症の4段階に分けます。入院診療は中等症からになっていますが、流行状況によっては中等症の定義に当てはまっても、速やかに入院加療にならないこともあり、その調整は横須賀市保健所や神奈川県コロナ調整班にいただいています。

治療内容は主に酸素投与と投薬です。酸素投与は酸素飽和度を指標に、酸素濃度と流量を適宜変更します。最初は少量の投与でも数日で人工呼吸器装着になることもあります。人工呼吸器管理になったときには当院では腹臥位療法（気管内挿管をすたすた伏せにすること）を行っています。昨年の第5波の時には100kg級の大きな患者さんが多かったので、1日300kg相当の患者さんたちの腹臥位療法をおこなったこともありました。治療薬の進歩は著しいものがあり、第1波のときにはファビピラビルという抗ウイルス薬を使って治療をしたこともありましたが、その後レムデシビルという点滴治療薬が登場、現在はモルヌピラビルやニルマトレルビル／リトナビルという内服薬も加わり選択肢が増えてきました。また、カシリビマブ／イムデビマブとソトロビマブという中和抗体薬で点滴治療を行うこともあります。投薬が終わっても、だるさや労作に伴い息切れを感じることがあり、さらには発熱などによる体力消耗と行動範囲が室内に限られていることでの筋力低下などがあり、すぐには動けないことが多いので、特に第7波以降は入院早期からリハビリテーションスタッフに関わってもらい、COVID-19専用病床内でリハビリテーションをおこない、逸早い日常生活への復帰にも取り組んでいます。さらに、うわまち病院独自の入院診療と言え、小児の入院診療です。第1波のときから親子入院があり、第3波では学校クラスターにも対応をしました。今回の第7波は小児の入院が今までよりも多いことが特徴のように思います。

最近は勢いよく広がっていくコロナウイルスですが、感染予防と感染対策をしっかりと行いながら皆で乗り越えていくようにしましょう。明けない夜はありません。

# 漢方 (1)

湘南病院 東洋医学センター長  
東海大学 専門診療学系漢方医学 准教授

中田佳延



## その体調不良に漢方処方

### はじめに

“風邪に葛根湯”でおなじみの漢方薬ですが、西洋医学の薬と異なり生薬の集合体で、またそれぞれの生薬が薬効成分を多数含有しています。よって、風邪のみならず、肩こり、神経痛、蕁麻疹、そして乳腺炎と、一つの葛根湯という薬でさまざまな疾患に効果があります。一方、漢方の風邪薬と言っても葛根湯だけではなくて、インフルエンザに使われる麻黄湯、冷え症で元気がない方に使われる麻黄附子細辛湯など、漢方に詳しい医師は、このように患者さんの体質を見きわめながら処方します。

### 漢方の適応

多岐にわたりますが、例えば冷えやのぼせ、体の痛み・しびれ、めまい、疲労倦怠、婦人科系の悩み、軽いメンタルの不調、消化管の不調、皮膚疾患、泌尿器疾患など、まさに今お困りの症状が治療対象です。また、“西洋医学では正常と診断されたのに症状が有る場合”も対象となり、“西洋医学と併用してさらに症状の改善を目指す治療”も行われます。

### 漢方の診察

医師や診察状況によって多少異なりますが、詳しい問診に加え、脈を診て、舌を見て、腹診を行う診察が一般的です。この一連の流れにより体質と病態を把握し、適切と思われる漢方薬を多数有る中から選択します。西洋医学と異なることは、症状を相手にしているため、問診に重点を置いています。

### 漢方薬

漢方の本来の姿は、何種類かの生薬を混合させ、粉にして内服、もしくは家で煎じてお茶のようにして飲むものでした。現在は、メーカーが煎じて粉薬にしたエキス剤が流通しており、一般的な薬と同様に持ち歩いて内服することができます。その一方で、だいぶ少なくなりましたが、生薬を医師の処方箋のもとで保険調剤している薬局もあります。

### 今回の連載について

全医学部での漢方教育が行われるようになり、またマスコミで取り上げられる機会も増え、だいぶ身近になった漢方治療ですが、まだまだ受診することに不安を感じる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。日本の医師免許は、いつもの医療に加え、漢方を処方する資格も同時に与えています。これは、日本の医療の大きなメリットであり、特別な医師にかかることなく、かかりつけの“いつものあの先生”が処方できることを意味します。さてこのたび、横須賀の地で漢方に詳しい、久里浜漢方内科クリニック 小野村雅久先生、いしわた医院 石渡雅男先生、追浜駅前ようこレディースクリニック 木下容子先生とご一緒に、漢方の魅力をお伝えしたいと思います。

今回の連載で、皆様方に漢方を身近に感じていただけたのなら、うれしいことこの上ございません。



## 泌尿器科 (2)

よこすか女性泌尿器科・泌尿器科クリニック 院長 奥井伸雄



### 前立腺肥大症の手術治療

前回お話しした前立腺肥大症を覚えていますか？男性の排尿にとっても重要で、尿道と膀胱の間にあるクルミ大の臓器です。水道でいうと、膀胱は水のタンク、尿道が蛇口、前立腺は蛇口の中のパッキンとってください。

長年の刺激や、男性ホルモンであるテストステロンの低下により発生するのが、前立腺肥大症です。初期のうちでしたら飲み薬で治り、ある程度大きくなっても別の飲み薬で症状を緩和することができるというのが前回のお話でした。

しかし、大きくなると、頻尿になり、尿が出しにくく、さらに進行すると尿がまったくでない尿閉になります。その場合は、手術により尿が出やすいように前立腺の形を整える必要がでてきます。30年余前に私が医師になったばかりのころは、前立腺肥大症は開腹手術をして切除するか、もしくは、尿道から内視鏡を入れて、その中にループの形をした電気メスを挿入して前立腺を内側から削るというものでした。出血が多く大変な手術でした。

現代では、安全に手術ができるようになりました。電気メスではなく、レーザーにより手術できるようになったからです。レーザーにはいくつか種類があります。代表的なものが、ホルミウムレーザー前立腺核出術（略称は、HoLEP:ホーレップと読みます）です。これは、ホルミウムヤグレーザーという種類のレーザー光を出す光ファイバーを尿道から挿入して、前立腺の中の内膜と外膜の境目と呼ばれる部分にあてていき、内膜という部分を取り除く技術です。日本には2002年に承認されました。次が、532nmレーザー光選択的前立腺蒸散術（PVP:ピーブイピー）です。このレーザーは、グリーン・ライトで、日本には2011年に承認されました。さらに高出力タイプXPS-PVPという機種が2018年に日本に承認されています。特徴は、肥大した前立腺の組織を溶かしてしまうということです。前立腺をみかんにたとえると、先にあげたHoLEPは、皮に傷つけることなく中身をくりぬいてしまう。PVPは、皮に傷つけずに、中身を溶かしてしまうものなのです。

それぞれの手術方法に新しいレーザー機種も参加してきました。ツリウム:YAGレーザーは、HoLEPと同じく中身をくりぬくものです。接触式前立腺レーザー蒸散術（CVP:シーブイピー）は、PVPと同じく蒸散を目的にして、ダイオードレーザーを使うものです。

こうしたレーザー治療を受けると、前立腺周囲の血管の流れがなおってきます。すると、テストステロンがまた高くなることがわかってきました。

さて、世界の最先端は、前立腺をよみがえらせるレーザーというものにも注目されています。これは研究段階ではありますが、非蒸散性エルビウムYAGレーザー（ErYAG）を用いて、前立腺炎や前立腺手術後尿失禁を治そうとするものです。これからの研究報告に期待されます。

# 横須賀市救急医療センター



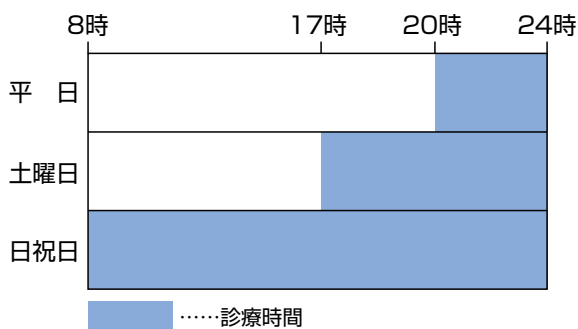
診療科目 内科・小児科・外科

〒238-0005 横須賀市新港町1-11

☎824-3001

横須賀市救急医療センターは、横須賀市医師会が管理・運営をしております。  
横須賀市医師会では、市民の皆様安心していただける  
質の高い医療を提供しております。

## 診療時間



年末年始 12月29日16時～  
1月4日8時まで24時間診療

## 案内図



横須賀市医師会は、市民の皆様により良い医療を提供できるよう

これからも努力していくつもりでありますので、

よろしくご支援をお願いいたします。

詳しいことは横須賀市医師会ホームページ

<http://www.yokosukashi-med.or.jp>

にアクセスしていただきますようお願いいたします。

横須賀市医師会  
モバイルサイト



<http://yokosukashi-med.or.jp/mobile/>

一般社団法人 横須賀市医師会

〒238-0005 横須賀市新港町1-11 TEL 046-822-0542 FAX 046-823-4534